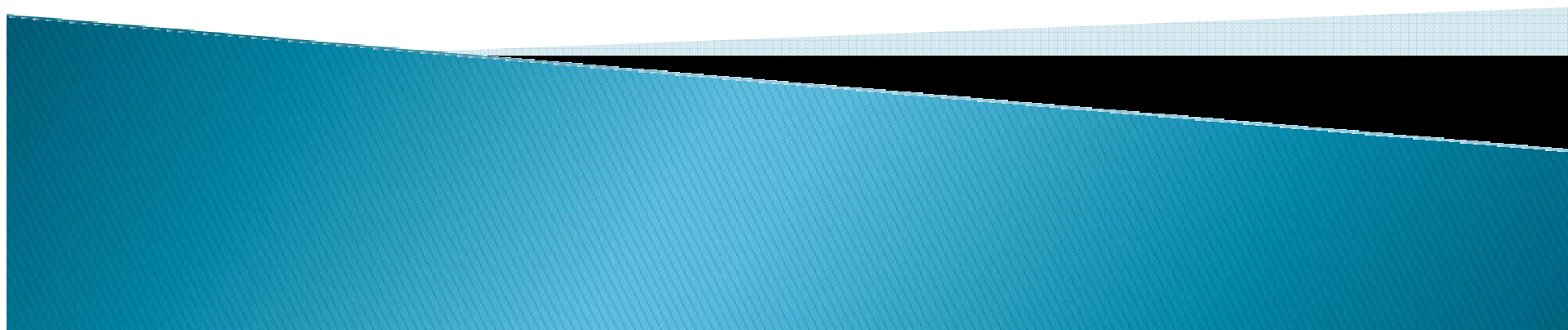


わっしょい!!*TAMA in* 箱根湯本

2009/8/20

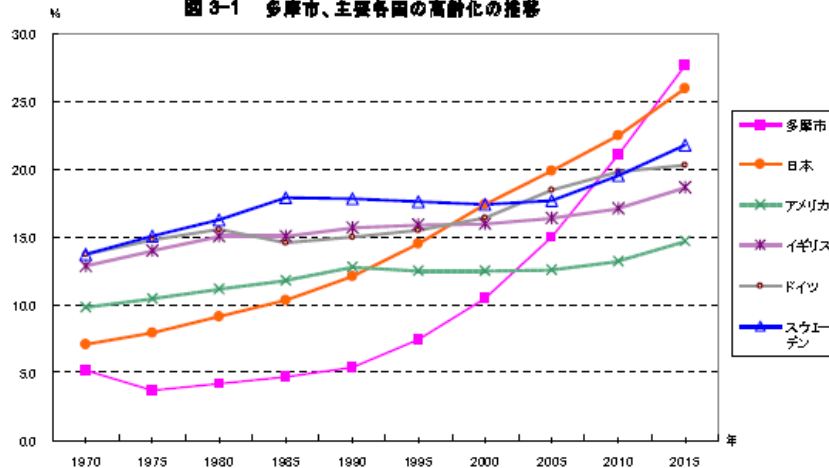
鮎川 礼

菊永 泰正



研究計画時の方向性

図 3-1 多摩市、主要各国の高齢化の推移



※多摩市: 各年1月1日住民基本台帳人口より、平成16年度高齢化率推計値
 ※日 本: 2000年までは総務省「国勢調査」、2005年以降は厚生労働省国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成14年1月中旬推計)
 その他の国は、UN「World Population Prospect: The 1998 Revision」(中位推計)
 高齢化率: 65歳以上の人口が全人口に占める比率

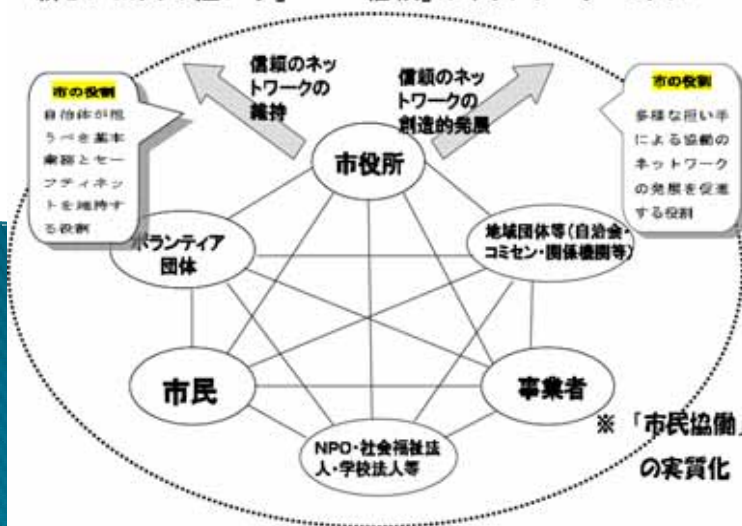
NTの人口問題の現状
 世界的にも急速な高齢化の進展
 [生産人口の減少]

→ 子育てが終わり、都心への回帰が原因
 [高齢者の増加] → 団塊の世代の集中が原因



地域コミュニティの活性化で問題解決できないだろうか？

「新しい公共の担い手」——「信頼」のネットワーク・モデル



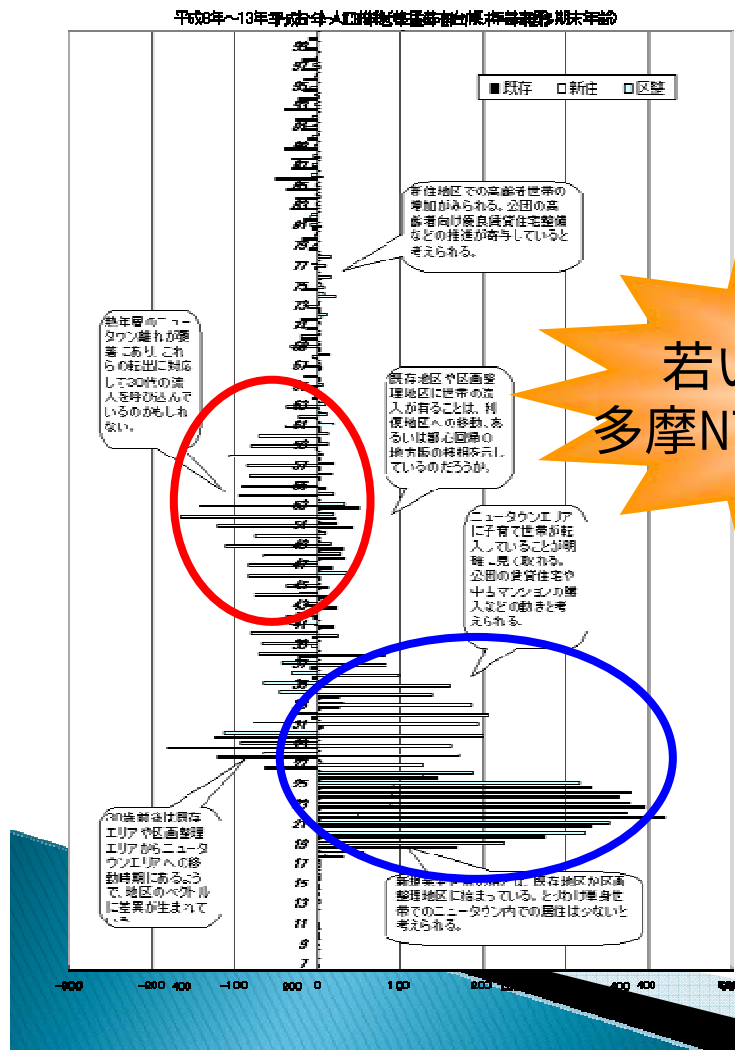
研究計画における方向性:

1. 地域住民とNPOの関わりは？
2. 多摩のNPOは成功しているのか？
3. NPOの抱えている問題とその解決策は？

人口問題その後

世帯主コーホート分析から見られる傾向(00-05)

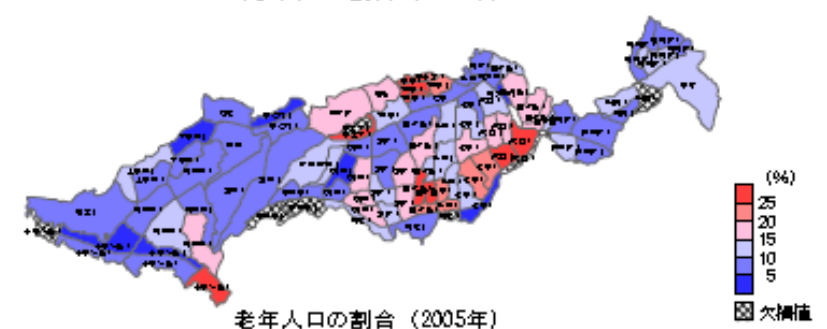
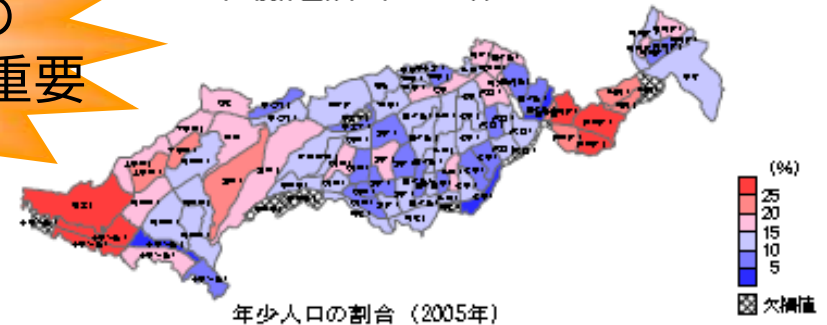
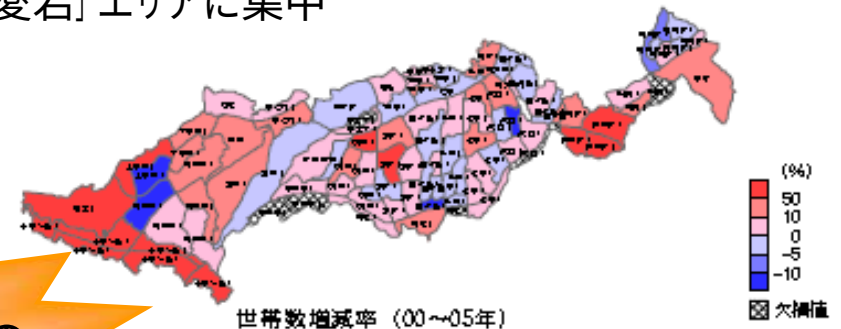
- ▶ 45-60の熟年世帯のNT外転出が顕著
- ▶ 19-40の若年・子育て世帯はむしろ増加基調



若い世代にとっての
多摩NTの位置付けも重要

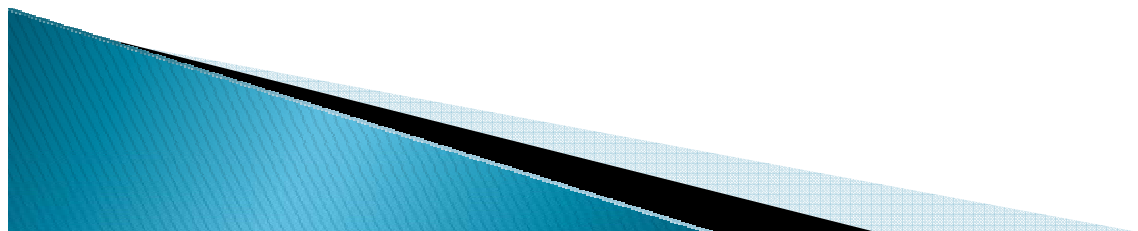
高齢化問題はエリア依存

- ▶ 多摩NTにおける高齢化は地域依存が大きい
- ▶ 世帯増加率の高い「南大沢、小山ヶ丘、若葉台」エリアでは年少人口の割合も高い
- ▶ 老年人口の高い地域は、「諏訪・永山、豊ヶ丘、愛宕」エリアに集中



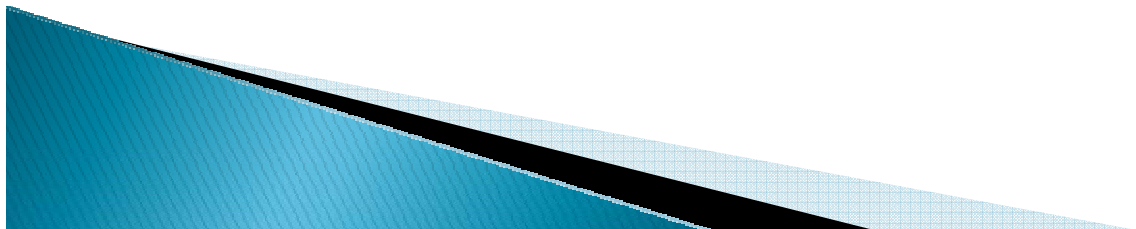
文献調査をしよう！

1. 「ニュータウン」とは？
2. なぜ「ニュータウン」は造られたのか？
3. どのようなニュータウンが造られたのか？
4. 多摩ニュータウンの特徴は？
5. ニュータウンが抱える課題とは？



「ニュータウン」とは？

- ▶ 戦後、日本の産業の復興と共に生まれてきた新しい住宅市街地のこと
- ▶ 中心市街地とは連続していない未利用地において計画的に開発され、比較的年代が近く、家族構成が類似している世帯が同時にある程度まとまって入居したニュータウンおよび住宅団地
- ▶ 計画的な新市街地
- ▶ 団地や戸建て、マンションなどさまざまな形態の建物が計画性を持って建てられた土地。



なぜニュータウンが造られたのか？

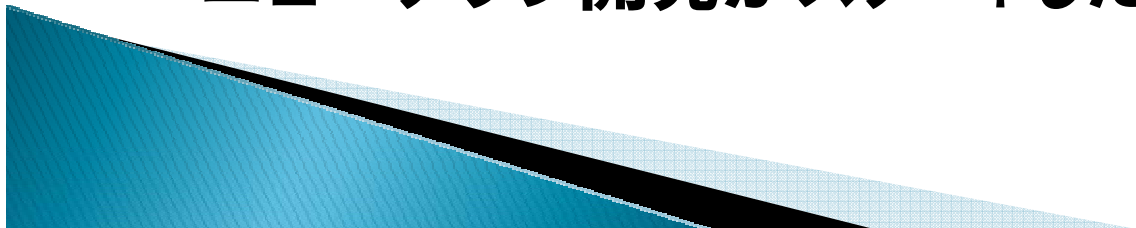
戦後の住居不足を補うため

資金がある人には持ち家購入を勧め、乏しい人には公営住宅を提供

中間層（サラリーマン）には住宅公団の住宅を

戦災による住宅不足＋高度経済成長で住宅不足

労働者（サラリーマン）が大都市圏に働きに出るようになりその近辺で住居の需要があがった。しかし大都市圏は次第に地価が上がり始め、一般家庭では購入できなくなった。そしてそのジレンマを解決するためにニュータウン開発がスタートした。

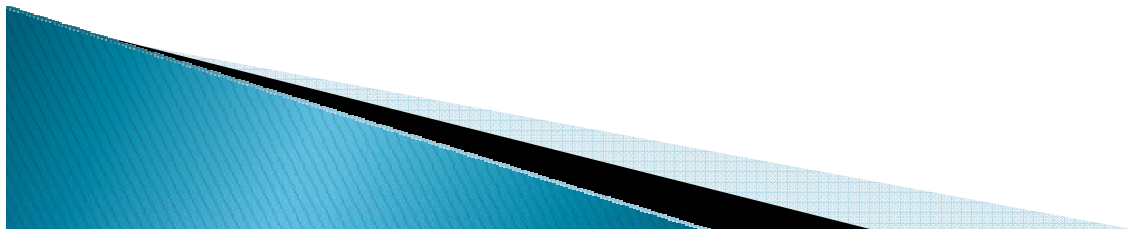
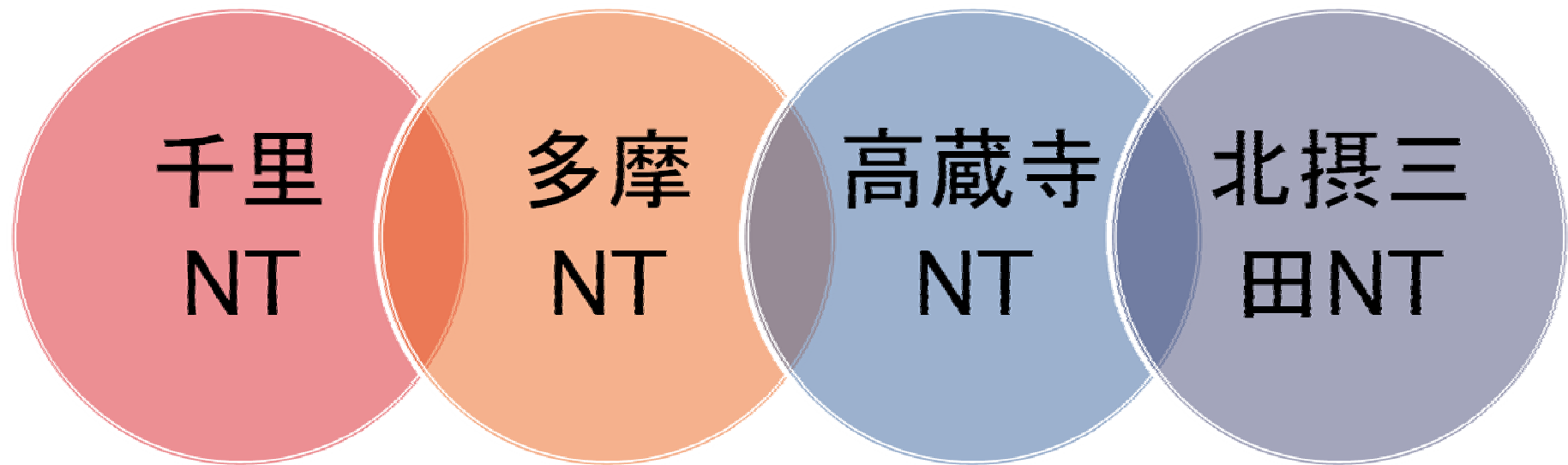


「明日のニュータウン」

- ▶ 開発地を遠隔地に求め、郊外部・地方部にインフラを整備し、新たに都市として独立した機能を備える大規模ニュータウン開発に着手した。
- ▶ 戦災を人口移動による住宅不足、都市人口の周辺部への流入によるスプロール化等への対応策として推進された。
- ▶ 戦後に人口が急増したこと
- ▶ 地方圏から大都市圏へと大きな人口移動が生じたこと
- ▶ 高度経済成長に伴い、生活水準の向上で人々がより質の高い住宅の所有を望むようになったこと



どのようなニュータウンが造られたのか

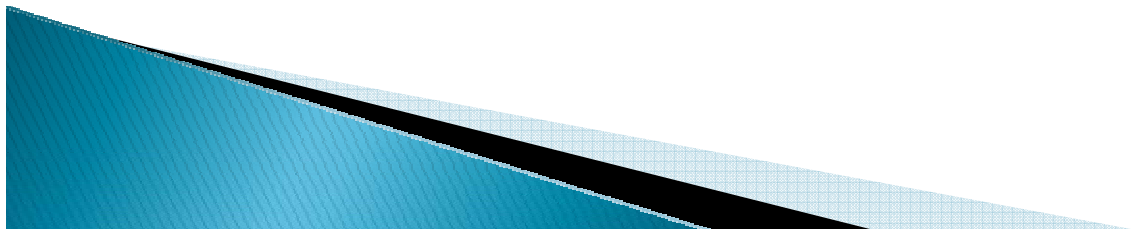


千里ニュータウンについて

- ▶ 1960年着工。1160ha 入居から45年経ったかつての“開発型都市”のモデル
- ▶ 大阪都市圏への人口集中に伴う住宅需要の増大とスプロール化に対応し建設。計画人口15万。3万7330戸。
- ▶ 日本最初の大規模NT。
- ▶ 大阪都心から約15kmの通勤・買い物等の利便性に富む場所に立地している
- ▶ 道路や公園などの都市基盤が充実した、整然とした街が形成された



- ▶ **公的賃貸住宅が約6割と過半を占める**
- ▶ **戸建住宅は敷地面積100坪前後と現在の水準から見て広いが、集合住宅では核家族を対象に狭小で画一的な2～3室タイプが供給された**
- ▶ **約10年間という短期的に事業を完成させたことにより、事業性に優れた反面、子育て期にあった同一層の集中的な流入を招いた**
- ▶ **ニュータウン建設後に必要とされる施設等のための用地はほとんど有しなかった**
- ▶ **居住者が高齢化した際の住まいや暮らしに関する配慮は少なかった**



多摩ニュータウンの特徴

千里

面積

約1160ha

着工開始年

1960年

約10年で完成

高齢者の割合: 30%以上

多摩

面積

約3000ha

着工開始年

1965年

未完成

高齢者の割合: 20%以上

ニュータウンの抱える課題

ライフスタイルや価値観に合った住宅の提供

- ・ 2DK,3DKではもう狭い！ 古くて陳腐な住宅ばかり！
- ・ お年寄りに優しい住宅が不足

少子化への対応

- ・ 子育て支援施設の不足
- ・ 産婦人科・小児科不足

高齢化への対応

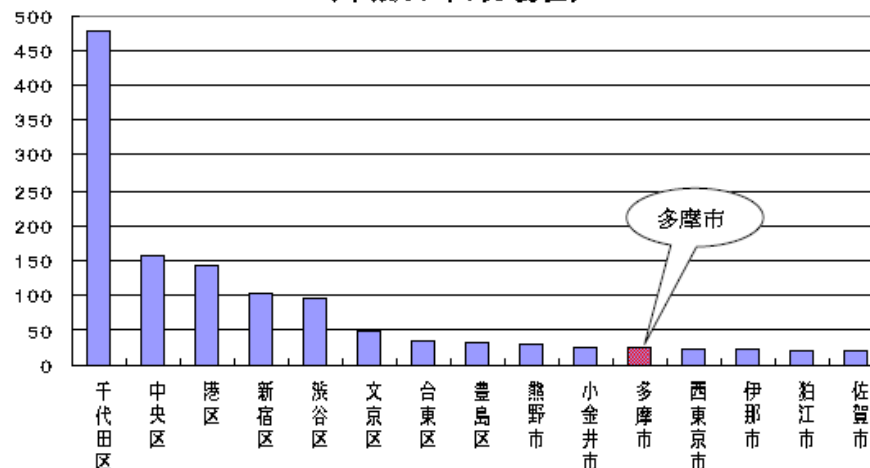
- ・ 老人ホームやリハビリ施設の不足
- ・ 地域コミュニティの活力の低下

多摩NT(多摩市)の取組み

行政とNPOの協力による地域づくり推進

- 多摩市では地域問題解消の為にNPOや様々な市民団体による活動を支援している。
- 行政と市民団体が協働して行う、委託事業は、H18年度40事業、H19年度39事業が実施されている。(NPO・市民団体等協働事例集より)

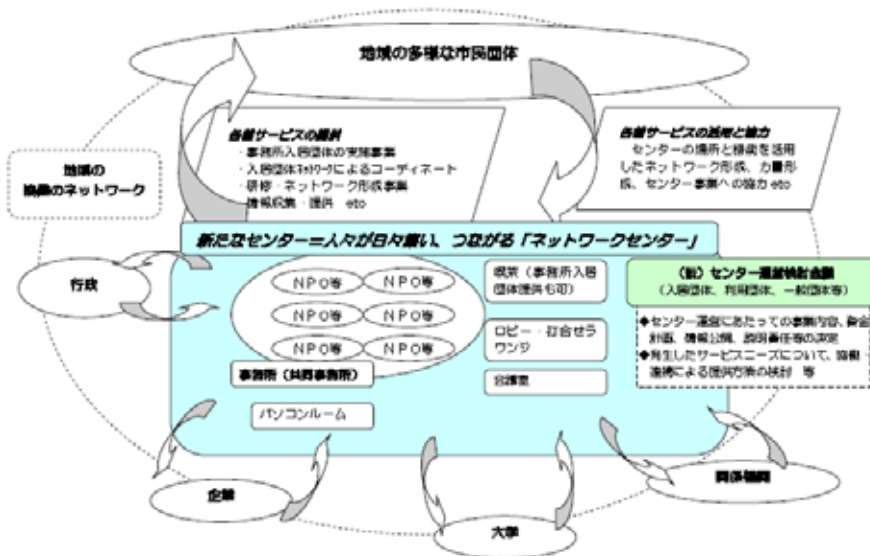
図3-9 全国のNPO普及指数ベスト15
(平成15年7月現在)



特定非営利活動法人(NPO法人)				78
※ 多摩市内に主たる事務所または従たる事務所を置く法人				
活動分野・重複あり	福祉・保険・医療	51	社会教育	39
	まちづくり	32	学術・文化・芸術・スポーツ	22
	環境保全	18	災害救援	5
	地域安全	6	人権擁護、平和	11
	国際協力	19	男女平等参画	11
	子どもの健全育成	34	情報化社会の発展	24
	科学技術	3	経済活性化	8
	職能開発・雇用拡充	15	消費者保護	3
	NPO支援	38		
ボランティア団体		多摩ボランティアセンター 登録	30	
		未登録	11	
自治会				96

(H21.5.21現在)

図1 今後の多摩NPOセンターのイメージ



ヒアリング ～市民活動情報センター～

6/5 多摩市:Community施策に力点→市民活動は活発

NT地域と既存地域に差(NT地域はNPO、既存地域は自治体中心)

知縁

地縁

- ▶ 行政の取組み: 情報発信(地域に入っていくきっかけ作り)
財政支援(補助金活用・業務委託等)
- ▶ 多摩地域のNPO (78団体) ……悩みを抱えている所も多い
 - 資金問題: 会費・寄付、補助金、事業収入が三本柱 集める努力をしている?
 - 人材問題: 目的を収束させる事(思いの共有)が難しい 団塊世代に期待も動きは鈍い
 - 時間問題: キーパーソンに集中(振返る時間もないほど大変)

<意識のミスマッチ>

▶ ボランティアは手弁当が当たり前 ↔ いい事をしているのだからサポートしてくれて当たり前

- ▶ 参加・連携が鍵: PushからPullへ【Bottom Up型の地域作り】
 - NPO間連携: ネットワーク多摩(産官学連携)、ニュータウン人・縁卓会議
 - 大学連携: 7-8の大学と連携 (大学側の地域貢献の動きと歩調を合わせる)
 - 企業連携: Benesse等と業務委託連携実施 ——— まだ動きとしては広がり欠ける

<Public Relations> どのように社会の中で認知してもらうか

NPOの課題

▶ NPOの類型

1. 「サービス提供型」：社会で恵まれない人々を対象に直接サービスを行うタイプ
2. 「ネットワーク促進型」：知識や情報を共有し、資産として利用できる情報を提供する組織。
3. 「キャパシティ・ビルディング型」：地域のNPOが能力を伸ばす為の中間支援組織
4. 「アドボカシー(政策提言)型」：環境保全・教育向上等特定の課題に対する提言を行う団体

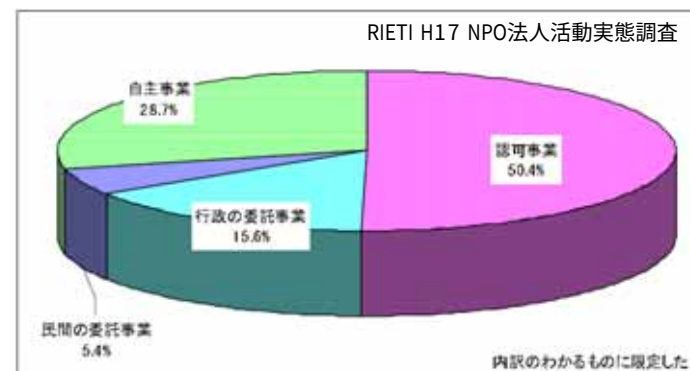
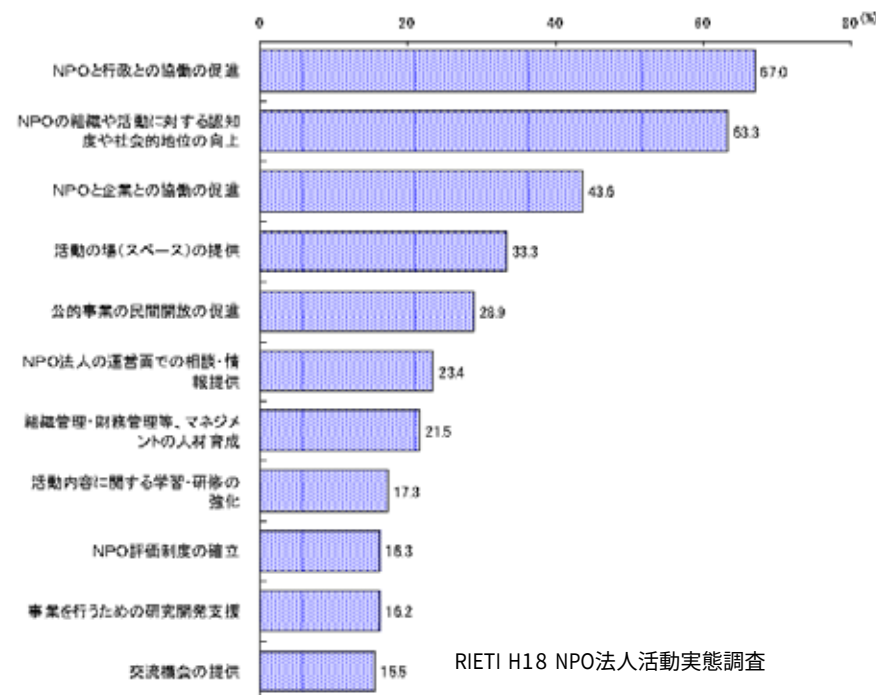
▶ 日本のNPOにおける弱点

1. 理論能力の欠如
2. 計画能力の欠如
3. 情報能力の欠如
4. 提案能力の欠如

Invest in People!
(人への投資が大切)

ファンドレイジングを行ううちに、自らを失ってしまうNPOが多い。(欧米では、夢・希望・理想に基づき手法や発想を導き出す)

関西国際交流団体協会「NPOの創造的マネジメント」2004



NPOの課題

▶ NPO参加に関する洞察 (大阪ボランティア協会 40年史より)

岡本:素人の考え方や参加をも大事にしていくような…。協会は固くて閉ざされた組織ではなかった。僕はそれを海、海岸に例えて「渚」といったりしていますが…。渚には交わりがある、癒しがある、学びがある、巢立ちがある。渚は「参加システム」そのものだ。それに比べ、日本文化というか、日本のNPOなどの組織は「閉塞」的過ぎるのでは…。コンクリートで閉塞すると疎早湾のように内も外も病む。

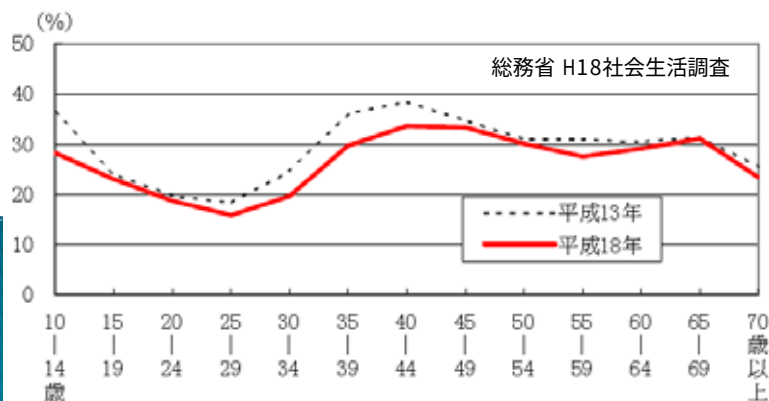
太田:以前のようなバザーやサロンをしてそれが復活するのかなという、それは疑問。違うものだと思います。イメージとしては、関わって、成し遂げたと実感できるようなもの、参加して成し遂げた、という成就感かな…。

西江:現在、ボラ協に関わっている人で20代の人本当に少ない。20代の人たちが入ってきて参加できる仕組みが必要ですね。

西江:若者たちがワクワクドキドキしながら、まだまだ元気な「団塊」を中心とした世代と一緒にやっていけるような…。そういう新しい参加システムのあり方を考えないといけないですね。」

日本の文化は、外に硬く内に柔らかい集団文化 ⇒ 専門職化により閉塞化が加速 ⇒ 地域社会との繋がりや断絶を生んだ

RIETI H18 NPO法人活動実態調査



▶ ボランティアモチベーションの構造

- 参加動機因子:
- | | |
|--------------|---------------------|
| 1. 「自分探し」動機 | 4. 「自己成長と技術習得・発揮」動機 |
| 2. 「利他心」動機 | 5. 「レクリエーション」動機 |
| 3. 「理念の実現」動機 | 6. 「社会適応(誘われた)」動機 |
| | 7. 「テーマや対象への共感」動機 |

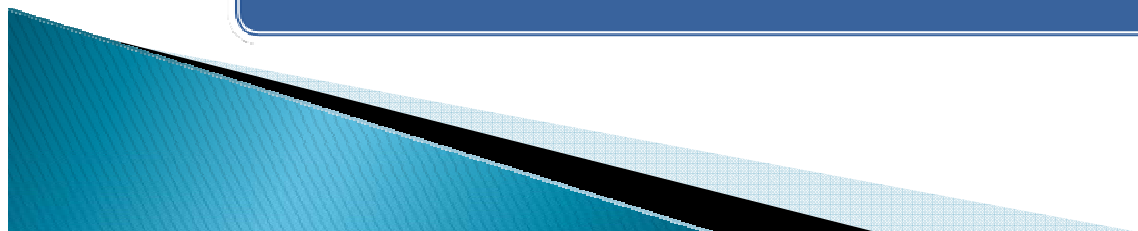
市民の関与UPの必要



市民が街を愛することが必要



市民のライフスタイルに合った街である必要

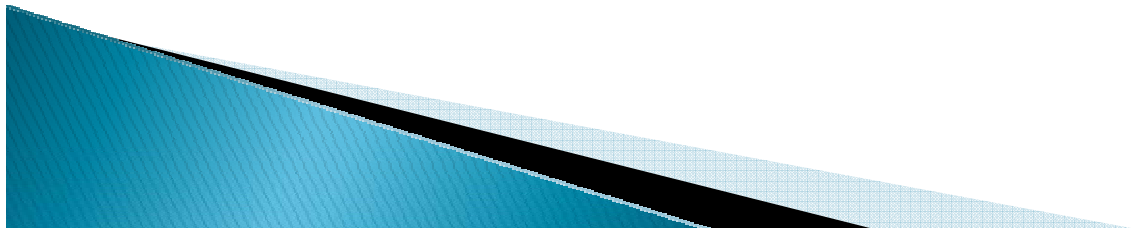


学生アンケートの実施

**地域活性化の為、若者のニーズや意識
調査により地域活動へのキッカケを提
案できないか？**



**多摩大学学生180名へ「まちと地域に関する
意識調査」のアンケート実施。
(酒井先生・松本先生講義受講生)**



学生アンケート結果分析

▶ 住み良さの評価

- 現住所の住み良さは、平均1.2と満足度は高い。
- 住み良さに男女差はほぼないが、同居の方が満足度が高い。

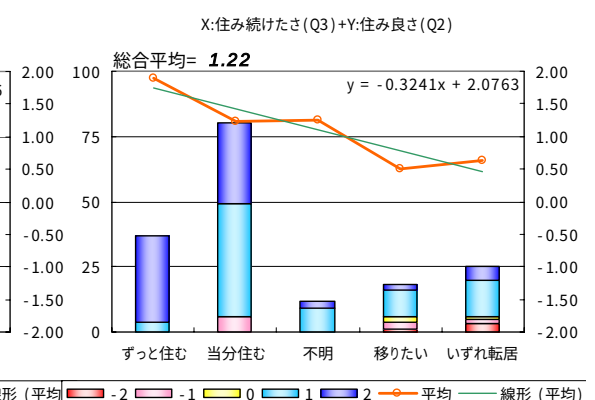
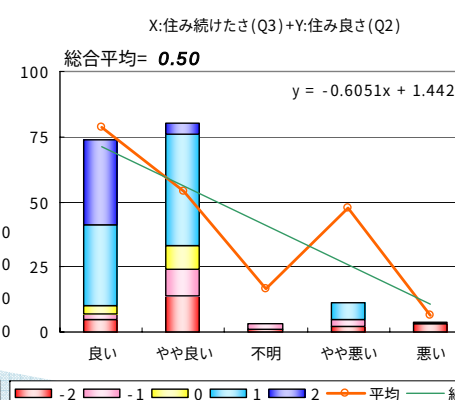
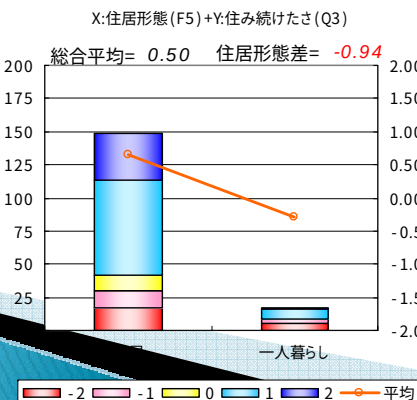
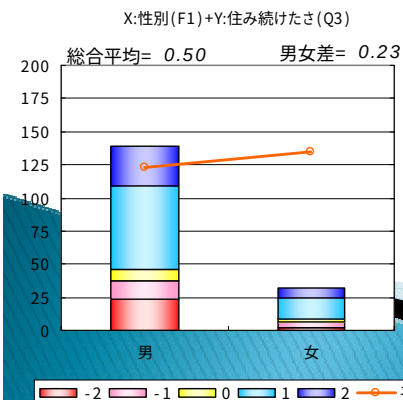
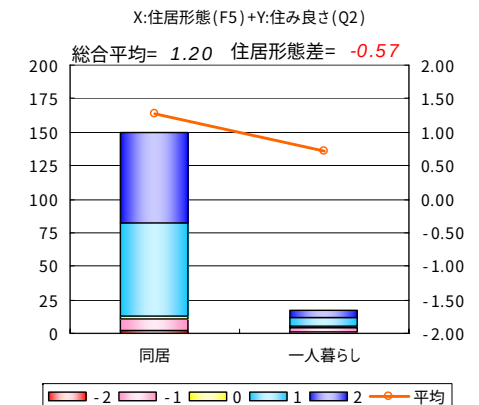
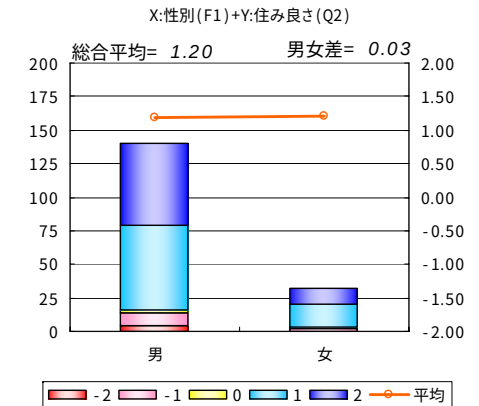
▶ 住み続けたいかの評価

- 住み続けたいかについては、平均0.5と当面続けたい意向。
- 女性の方が若干住み続けたい意向が高く、同居の方が住み続ける意向が高い。

▶ 住み良さと住み続けたさの関連

- 現住所に満足している人は住み続ける意向が高く、住み難いと回答した人は転居意向が高い。
- 定住を促進するにはやはり住環境の満足度を上げる事が必要。

※ 但し、転居意向が高い人の中にも満足度の高い人も多く、就職その他の満足度以外の要因も影響していると考えられ、別途考察が必要。



学生アンケート結果分析

▶ 満足度の要素

- 日当り、緑の豊かさ、交通の便、買い物の便の満足度が高く、地域活動、騒音・振動、空気のきれいさの満足度が低くなっている。

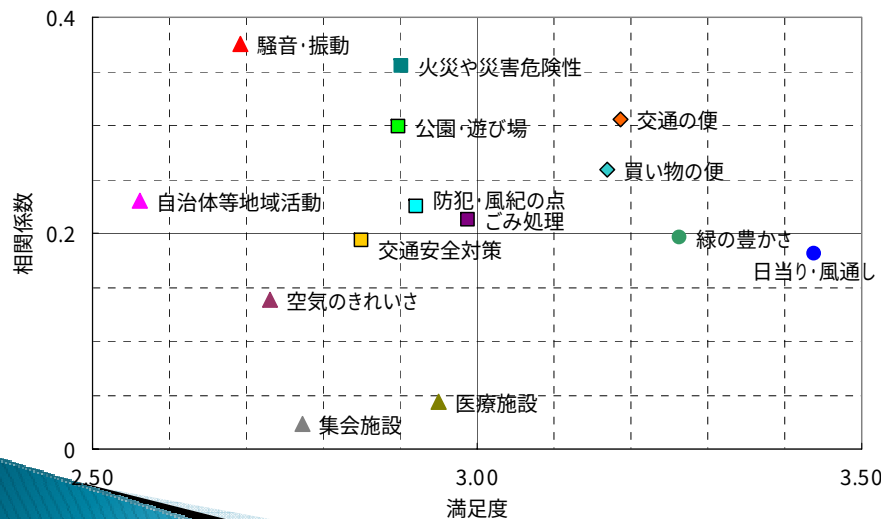
▶ 住み良さの要素

- 住み良さとの相関では、騒音・振動、災害危険性、交通の便が高く、集会施設、医療機関が低い。(若者にとっての関心事を反映か?)

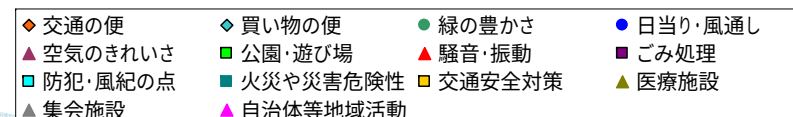
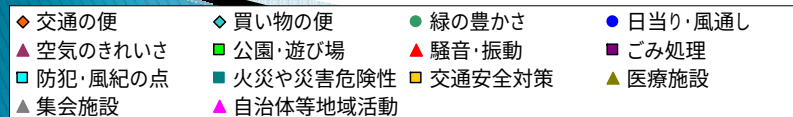
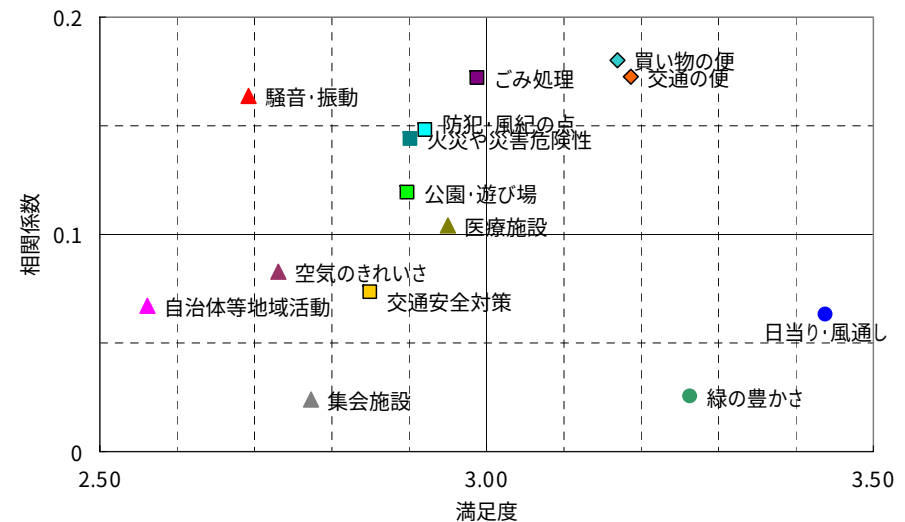
▶ 住み続けたさの要素

- 住み続けたさとの相関では、買物の便、交通の便、ごみ処理、騒音・振動が比較的高く、集会施設、緑の豊かさが相対的に低くなっている。

現住所満足度vs住み良さ



現住所満足度vs住み続けたさ



学生アンケート結果分析

▶ 住まいに対する考え

- 通勤通学、生活環境、買物の便がTOP3、親との同居、親の近所、どこでもよいがWorst3であり、若者の関心を伺う事ができる。
- ※ 住民と仲良くと一人で気ままにの回答が拮抗しており、もう一段クラスターを分ける事ができる可能性がある。

▶ 住まいの考えと男女差

- 親と同居、親の近く、行政サービスに関しては女性の関心が高く、住む場所にこだわらない(色々な土地、どこでもいい)は男性の方が高い。

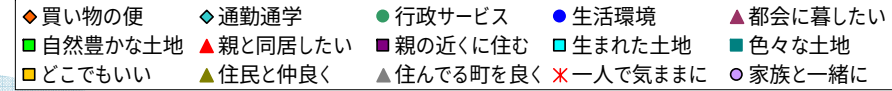
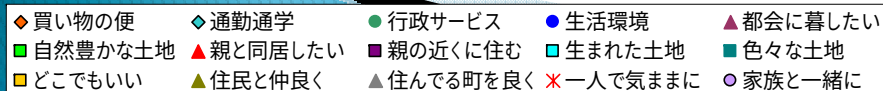
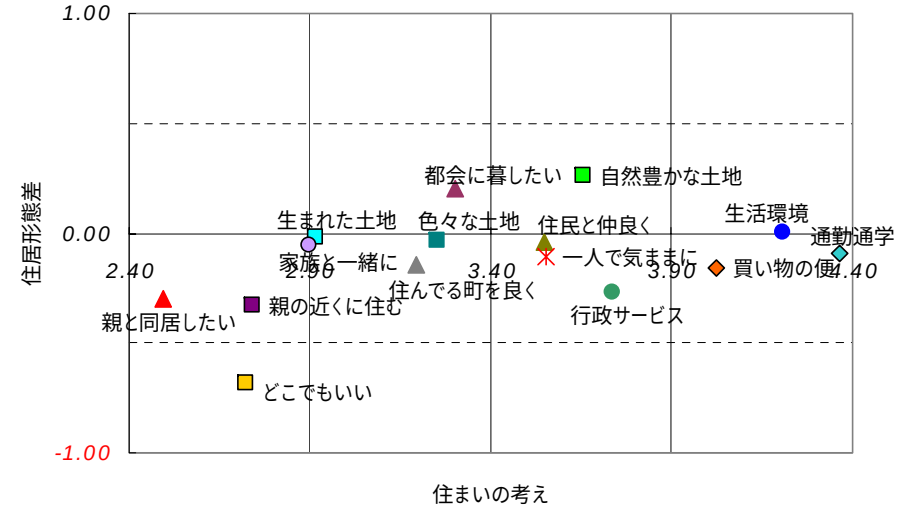
▶ 住まいの考えと住居形態

- 同居の方が住む場所への拘りが若干高く(神前豊かな土地、都会に暮したい)、一人暮らしの方が親元を離れたい意向(親との同居、親の近所)が高い。

X:住まいの考え(Q4)+Y:男女差(F1)



X:住まいの考え(Q4)+Y:住居形態差(F1)



学生アンケート結果分析

▶ 地域活動への興味

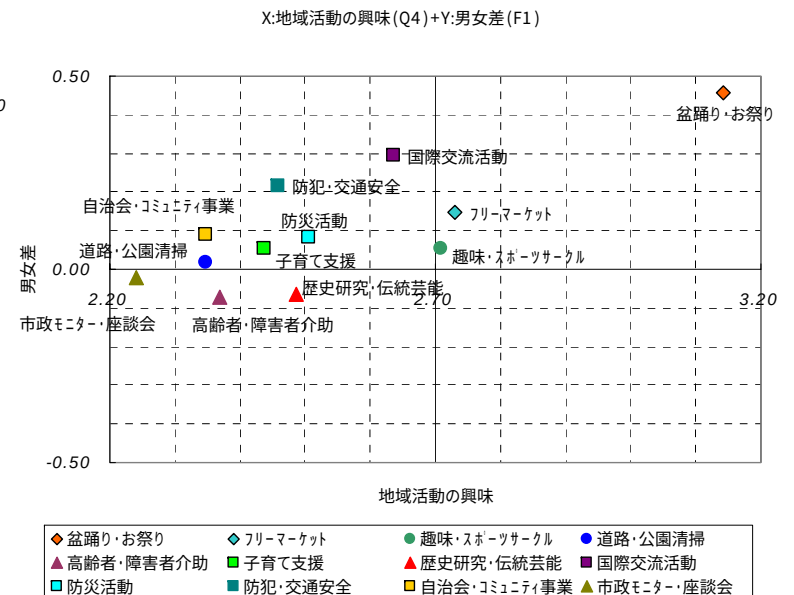
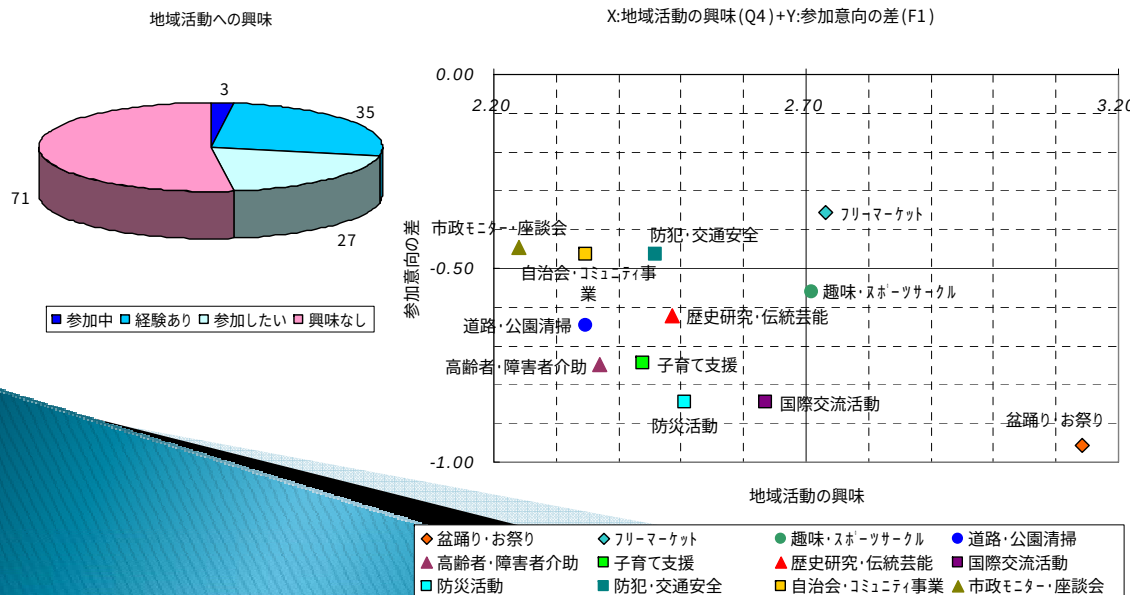
- 全般的に興味は低く、3点を超えているのは盆踊り・お祭りのみ。次にフリーマーケット、趣味のサークル、国際交流活動と続き、これらは参加へのハードルが低いと考えられる。
- 市政モニター、自治会活動等が最も興味が低く、参加へのハードルが高いと考えられる。

▶ 地域活動への興味の差

- 地域活動に興味があるメンバーと興味のないメンバーがほぼ半々となっている。
- 地域活動に興味のあるメンバーは全ての活動に対して、0.4点以上点数が高い。
- 盆踊り・お祭り、国際交流活動、防災活動等は興味の有無によりポイント差がはっきり分れる。

▶ 地域活動への興味と男女差

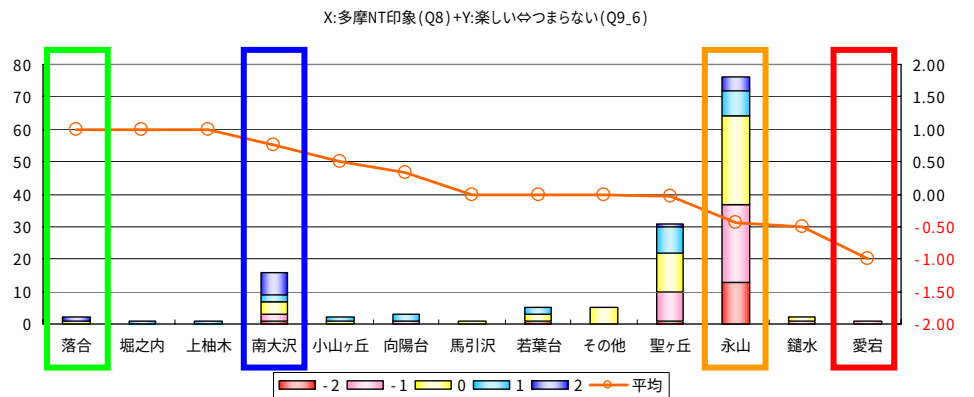
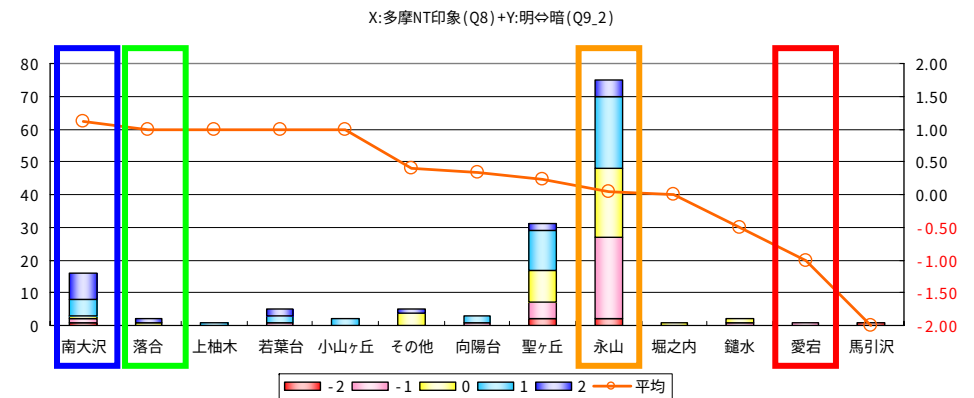
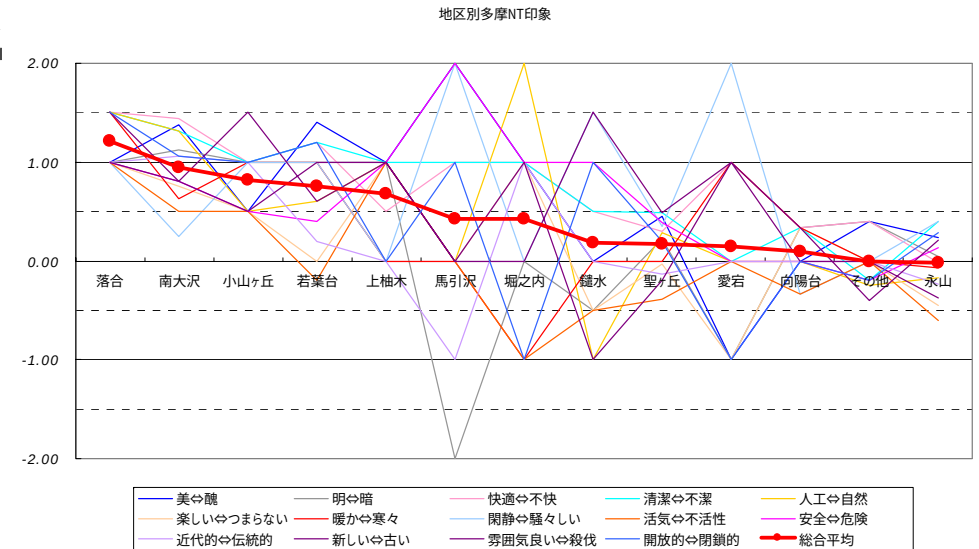
- 地域活動に対しては全般的に女性の方がポイントが高く、特に盆踊り・お祭り、国際交流活動は男性より女性の興味が高い。



学生アンケート結果分析

▶ 多摩NTの印象

- 多摩NTの印象は地域により大きく異なる。
平均点としては落合、南大沢が高く、永山、向陽台、永山が低い。
- 明るい⇔暗い、楽しい⇔つまらない等の特徴的な項目について、今後フィールドワークで確認調査を行う。



今後の予定

9月中

多摩市内で2・3か所フィールドワークを！



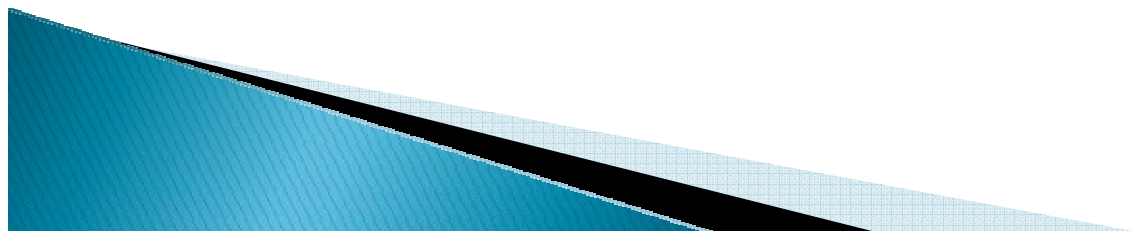
秋学期

多摩以外のNTを視察・各大学・研究機関へ！

南大沢のフィールドワークを行い、ビジネスモデルを計画している多摩大学大学院の研究チーム「Smile Garden Camp」の調査方針を参考にして我々も調査を進める！

参考文献

- ▶ ニュータウン再生を支える地域コミュニティ創生に関する調査研究
(財)関西情報・産業活性化センター NIRA 2007/5/1
- ▶ 地域を支え活性化するコミュニティ・ビジネスの課題と新たな方向性
(財)神戸都市問題研究所 NIRA 2002/9/1
- ▶ ニュータウン再生～引き潮時代のタウンマネジメント～
秋元 孝夫(多摩NTまちづくり専門家会議) 2007/6/27
- ▶ ニュータウン人・縁卓会議報告書
NPOフュージョン 2006/10/26
- ▶ 「明日のニュータウン」財団法人東北産業活性化センター編 日本地域社会
研究所 2008年 p.37,38
- ▶ 「ニュータウン再生」 山本茂 学芸出版社 2009年
- ▶ 「ニュータウンの未来」 秋元孝夫



FIN

